

令和6年度第1回人権を尊重するまち三鷹審議会 会議録

- 開催日：令和6年11月11日（月）午後6時30分から午後8時00分まで
- 会場：三鷹市元気創造プラザ5階 災害対策本部室
- 出席委員：秋月委員、田原委員、坂本委員、岡田委員、平山委員、本多委員、丸山委員、室山委員、泉澤委員、山川委員
- 傍聴者：4名

1 開会

2 委嘱状の交付

- ・任期は令和6年11月11日～令和8年11月10日
- ・市長が各委員に委嘱状を交付
- ・オンライン参加の室山委員には後日委嘱状を交付する。

3 市長あいさつ

- ・河村孝市長より挨拶

4 自己紹介

- ・各委員から自己紹介
- ・三鷹市出席者の紹介

5 会長・副会長の選出について

- ・人権を尊重するまち三鷹審議会規則第3条に基づき、会長及び副会長を互選で選出した。
会長：秋月委員
副会長：田原委員

6 人権を尊重するまち三鷹条例の説明

資料2「人権を尊重するまち三鷹条例ガイドブック（案）」に基づき、「人権を尊重するまち三鷹条例」について、企画部より説明した。

<意見交換>

[A委員]

- ・「人権を尊重するまち三鷹条例ガイドブック（案）」P.2<参考>「様々な人権課題」のS O G I（ソジ）の注釈について、より丁寧に説明した方が良いように感じる。

[事務局]

・「様々な人権課題」の表は、東京都発行の「みんなの人権」を元に編集した。また、「SOGI」については、令和6年7月から開始した「みたかSOGI相談（性の多様性に関する相談）」のチラシにも同様の記載をしているが、ご提案をふまえ、より丁寧な記載にすることを検討したい。

[B委員]

・三鷹での人権侵害の実態について、特に問題視されている人権侵害はどのようなものか伺いたい。

[事務局]

・三鷹において大きな問題になっている人権問題はない。三鷹市の基本計画策定に際し、市民満足度調査というアンケートを実施しており、人権に関する質問をしている。その結果を参考にしている。

・人権を尊重するまち三鷹条例については、縦割りの相談機能を横断するような、伴走的な相談窓口になることを目指している。

7 条例の体系と個別課題の対応イメージについて説明

- ・認知症にやさしいまち三鷹条例（仮称）について、健康福祉部より説明した。
- ・（仮称）三鷹市子どもの権利に関する条例について、子ども政策部より説明した。

<意見交換>

[B委員]

・「認知症にやさしいまち三鷹条例（仮称）」や「（仮称）三鷹市子どもの権利に関する条例」に市民の役割を入れるかどうかについて確認したい。

[事務局]

・「（仮称）三鷹市子どもの権利に関する条例」については、家庭の役割や地域の方の役割など、様々な役割があるので、市民の役割についても入れたいと考えている。

[B委員]

・子どもの登下校など、家族だけでなく、地域の方が見守る大切さを感じているので反映されると良い。

8 その他

<意見交換>

[C委員]

・家族がゆるやかに認知症が進行しているのを実感している。「認知症にやさしいまち三鷹条例（仮称）」の中に、声掛けやヒアリングなど、早期発見・早期支援が含まれていることが良

いと思った。

[D 委員]

・学校の立場から、子どもたちの声を聴いていただけることは非常にありがたく、子どもたちも人権について考える機会になる。学校の中でも子どもたちが声を出せる機会を作るが、学校だけでは難しいところもあるので、地域の力、まちの力も必要だと思う。学校の教職員や家庭だけでなく、多くの大人が関わることで学べることが多くあるので、どう連携できるかと思いながら聞いた。

[E 委員]

・認知症の当事者が何を必要としているのかを把握することは難しい。「認知症にやさしいまち三鷹条例（仮称）」について、審議会等での議論は簡単ではないと思う。

[F 委員]

・「言葉の強さ」について若いうちから意識を持つのは良いことだと思う。私は日本国籍だが、外見からは日本人とは見られないので寂しい。人はそれぞれ多様性を持っているので、「高齢者」「〇〇者」という言い方は必ずしも必要ではないと思う。小学校2年生で「外」という漢字を習うが、「外人」「外国人」は壁を作る言葉であり残念だ。

[秋月会長]

・坂本委員のご意見を伺って、自分たちが無意識に分けていることに気づかされた。たくさん意見を聞いて、多様性や1人1人を大切にすることを考えていければよいと思った。

[G 委員]

・認知症の方とお会いする中で、認知症という言葉が不安要素で、健常者と当事者を区切ってしまう感じを非常に感じる。長寿社会において、認知症になったらおしまいではなく、一緒に暮らしていく同じ仲間という認識が必要である。子ども向けの認知症サポーター養成講座の際も、伝え方が非常に難しい。「かわいそう」「手伝ってあげたい」などの感情があるが、認知症の方の違いをどう受け入れて、関わりを作っていくべきかを、子どもの頃から理解していくことが重要。お年寄りには認知症という言葉は拒否する。「病院には行かない」「認知症のはずがない。」と考えているが、ご家族と相談していく中で、認知症の方を区切ってしまうことは気をつけないといけないことだと思う。本審議会でも認知症について議論できることはありがたいことだと考えている。

[A 委員]

・認知症もそうだが、LGBTについても、「言ってくれたら対応するのに」という言葉をよく聞く。子どものころから認知症やLGBTなどについて学べる環境を作り、安心して暮ら

せる環境整備に期待する。今は枠組みの中では声をあげられるが、今後はL G B Tへの認知が広がって、安心して暮らせる社会を作っていきたい。

[B委員]

・インターネット上に様々な意見があり、自分が果たしてどうあるべきかについて考え、自分が被害者となる可能性もあると考えている。本審議会の説明や資料などを通して自分なりの理解ができることをありがたく思う。

[H委員]

・ハラスメントの種類が多いことに驚き、自分自身も気をつけようと感じた。身近で問題が起きないとあまり考えることもないので、本審議会に参加して大変勉強になった。

[田原副会長]

・「認知症にやさしいまち三鷹条例（仮称）」や「（仮称）三鷹市子どもの権利に関する条例」は制定前の段階であるので、進捗状況を確認しながら本審議会を進めていけるのは貴重な機会だと思う。「子ども基本法」が施行され、それをどのように「（仮称）三鷹市子どもの権利に関する条例」に落とし込んでいくのか、市民として関心を持っている。

9 事務局より

- ・次回開催は令和7年3月の予定。

10 閉会